

トップスとボトムスの面積比が着装イメージに及ぼす影響

A20AB038 木村 穂乃果

1. はじめに

現在、ファッションの多様化が進んでおり、様々なデザインの衣服が出回っている（図1）。中でも、コーディネートにおいては丈のバランスが問題となるといえる。これまで服装の丈に関する研究はいくつかあるが、それらの多くはスカートに関するものが多く、トップスとの関係を扱った研究は数少ない。

そこで本研究では、トップスとボトムスの面積比の変化により着装イメージがどのように異なるか、また、トップスの色彩により調和度やイメージがどのように変化するかについて検討することとした。なお、これらの要因の解明は、今後の衣服の選択や、デザイン及び企画、提供に貢献できると考えられる。



図1 雑誌の着用画像

2. 方法

2-1 実験用シャツの制作

今回の実験では、生地にエステルポプリン（ポリエステル100%）を使用した。トップスには、着用機会の多いシャツブラウスを選択し、各丈の長袖と半袖を制作した。ボトムスは全て黒のスラックスで、丈はウエスト丈、ウエスト丈+10cm、+20cm、+30cm、+40cm、の5種類の撮影をしたが、違いが分かり難い点と被験者の負担を減らす点から、ウエスト丈、ウエスト丈+20cm、+40cmの丈を選択し、計6種類の着用画像を実験に用いることとした（図2）。



図2 実験用シャツ着用画像

2-2 実験用試料の作成

上記6種の画像をもとに、色彩シミュレーションソフト「4D-boxPLANS4」（㈱トヨシマビジネスシステム）を用いて、白、明るい青、明るい赤、鮮やかな赤 の計4色に色彩変換を行い、グレー背景とした24種類の試料を作成した（図3）。

なお、ボトムスを1とした時のトップスの面積比は、表1のとおりである。丈に関して以下、ウエスト丈を「短」、ウエスト丈+20cmを「中」、ウエスト丈+40cmを「長」と示す。

表1 ボトムス1に対するトップスの面積比

	長袖	半袖
短	0.6	0.45
中	1	0.75
長	2	1.5



図3 実験用試料

2-3 実験方法

実験は、上記試料をランダムに提示し、女子大学生 50 名を被験者として SD 法による 5 段階評定の官能検査を実施した。評価項目には、「重い-軽い」「洗練された-野暮ったい」「男性的な-女性的な」「大人っぽい-子供っぽい」「派手な-地味な」「好きな-嫌いな」「カジュアルな-フォーマルな」「丈が調和している-調和していない」という着装イメージに関する 8 形容詞対を用いた。得られた評価から平均官能量を算出するとともに、因子分析及び数量化 I 類にて関与する要因について検討した。

3. 結果および考察

3-1 平均官能量

官能検査結果をもとに、8形容詞対における平均官能量を算出した（図4）。「重い-軽い」「派手な-地味な」「大人っぽい-子供っぽい」に関しては、色による影響が大きく、丈による影響は小さいという結果となった。逆に、「洗練された-野暮ったい」「男性的な-女性的な」「カジュアルな-フォーマルな」に関しては、丈による差が見られ、短い方が洗練された印象を与え、女性的でフォーマルであると評価された。丈が長いと野暮ったく、男性的でカジュアルな印象を与える結果となった。また袖の長さでは、特に「洗練された-野暮ったい」「好きな-嫌いな」に関して、半袖の方が丈による差が大きく表れた。「丈が調和している-調和していない」に関しては、色による変化が少なく、長い丈の方が調和していないという評価になった。

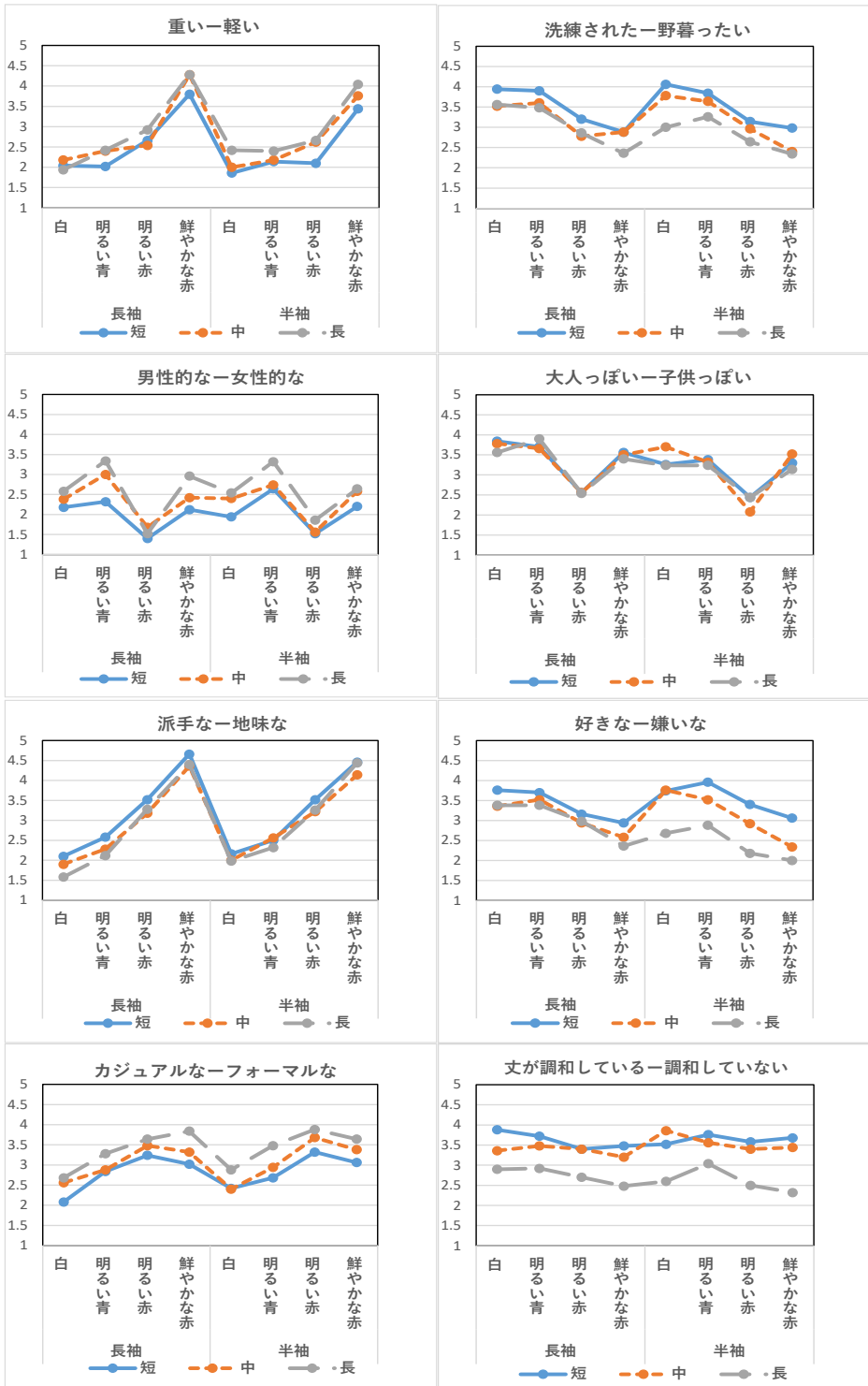


図4 平均官能量

3-2 因子分析結果

これらのイメージに関与する要因を検討するために、得られた平均官能量をもとに、因子分析（最尤法）を行いプロマックス回転後の結果を表2に示した。固有値 1.0以上で 3 因子が抽出され、その累積寄与率は 88.8%と高い値を示し、説明力は十分あるといえる。

第1因子では「派手な-地味な」「重い-軽い」の2形容詞対が高い負荷量を示し、これを「力量性の因子」とした。第2因子では、「好きな-嫌いな」「洗練された-野暮ったい」「丈が調和している-調和していない」「カジュアルな-フォーマルな」の4形容詞対が高い値を示し、「評価性の因子」、第3因子は「大人っぽい-子供っぽい」「男性的な-女性的な」の2形容詞対が高い値を示し、「性の因子」とした。

表2 因子分析結果（最尤法）

形容詞対	FAC1	FAC2	FAC3	共通性
派手な-地味な	0.977	-0.480	-0.362	0.999
重い-軽い	0.944	-0.620	-0.032	0.951
好きな-嫌いな	-0.774	0.943	0.250	0.952
洗練された-野暮ったい	-0.857	0.893	0.373	0.951
丈が調和している-調和していない	-0.347	0.834	0.086	0.767
カジュアルな-フォーマルな	0.672	-0.822	-0.558	0.811
大人っぽい-子供っぽい	-0.237	0.427	0.981	0.999
男性的な-女性的な	-0.113	-0.018	0.776	0.677
寄与率(%)	45.3	19.3	24.2	
累積寄与率(%)	45.3	64.6	88.8	

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiserの正規化を伴うプロマックス法

力量性の因子

評価性の因子

性の因子

3-3 数値化I類による要因の分析

着装イメージに関与する要因について、袖、丈、色を説明変数、平均官能量を従属変数として数値化I類により分析を行った結果を表3に示した。偏相関係数から、「丈が調和している-調和していない」以外の形容詞対では、色が最も大きく影響している。各色のカテゴリ数量から、白は、軽く地味な印象、明るい青は、地味で男性的な印象、明るい赤は、子供っぽく女性的な印象、鮮やかな赤は、派手で重い印象であるといえる。袖に関しては、ほとんどの形容詞対で偏相関係数は低いが、「大人っぽい-子供っぽい」のみ、丈よりも袖による影響が大きかった。

「丈が調和している-調和していない」について、偏相関係数から丈が最も大きく影響し、丈のカテゴリ数量から、短い方が調和しており、長い方が調和していないといえる。最も調和していると評価されたのは短丈の明るい青色で、逆に最も調和していないには長い丈が影響していた。

表3 数値化I類による分析結果

アイテム	カテゴリ	重い-軽い		洗練された-野暮ったい		男性的な-女性的な		大人っぽい-子供っぽい	
		カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数
袖	長袖	0.078	0.465	0.038	0.281	-0.002	0.012	0.146	0.739
	半袖	-0.078		-0.038		0.002		-0.146	
丈	短	-0.205	0.726	0.284	0.866	-0.287	0.852	0.021	0.266
	中	0.032		-0.013		0.018		0.031	
	長	0.172		-0.271		0.268		-0.052	
色	白	-0.639	0.980	0.435	0.958	0.010	0.959	0.329	0.961
	明るい青	-0.453		0.412		0.567		0.299	
	明るい赤	-0.129		-0.278		-0.737		-0.797	
	鮮やかな赤	1.221		-0.568		0.160		0.169	
重相関係数		0.981		0.967		0.966		0.965	
重相関係数の2乗		0.963		0.934		0.934		0.931	
アイテム	カテゴリ	派手な-地味な		好きな-嫌いな		カジュアルな-フォーマルな		丈が調和している-調和していない	
		カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数
袖	長袖	-0.025	0.224	0.068	0.330	-0.037	0.360	-0.014	0.100
	半袖	0.025		-0.068		0.037		0.014	
丈	短	0.166	0.736	0.361	0.841	-0.277	0.926	0.370	0.947
	中	-0.067		0.013		-0.029		0.205	
	長	-0.099		-0.374		0.306		-0.575	
色	白	-1.068	0.993	0.343	0.896	-0.606	0.971	0.096	0.679
	明るい青	-0.628		0.389		-0.093		0.156	
	明るい赤	0.308		-0.174		0.431		-0.094	
	鮮やかな赤	1.388		-0.558		0.268		-0.157	
重相関係数		0.994		0.932		0.979		0.951	
重相関係数の2乗		0.987		0.869		0.958		0.905	

4. おわりに

本研究では、トップスとボトムスの面積比が着衣イメージに及ぼす影響について、トップスの色や丈を変化させて検討した結果、丈の違い（=トップスとボトムスの面積比）によってイメージや調和度に差異が見られた。また、イメージに関与する要因では、色が各イメージに最も関与し、トップスとボトムスのバランス以上に、着用する服装の色彩の重要性が認識される結果であった。

5. 参考文献

- 1) CanCam.jp : <https://cancam.jp/archives/692338>
- 2) 内山生, 熨斗秀夫, 石井寛, 福川正樹: 『スカート丈の経年変化に関する調査と解析』繊維機械学会誌 34(2), 1981
- 3) 石原久代, 原田妙子, 早坂美代子: 『下肢形状とスカート丈との関係 1 -タイトスカート』繊維製品消費科学 30(7), 1989